

公益財団法人 みんなでつくる財団おかやま

2023 年度(令和 5 年度) 事業計画書



(2023 年 2 月 26 日理事会 議決)

2023 年度事業方針と重点テーマ

寄付の喜びを実感できる社会の実現を！（寄付を日常に）
「 寄付者との交流と情報提供を強化する。 」

2022 年度は、設立から 10 周年を迎え、寄付との接点が増えるよう取り組みをすすめました。8 月には「スポーツ×寄付」をテーマに 422 人マラソンリレーを開催、12 月の寄付月間には、「文化×寄付」をテーマに寄付月間まつりを開催しました。どちらも実行委員会形式で、地域のみなさんや中学生、高校生、大学生とつくりあげ、地域のイベントとして定着していくように仕組みづくりをすすめました。そのかいもあり、寄付月間まつりは、寄付月間大賞の地域賞として表彰も受けました。

また、「みんなつく×○○」の推進として、社会福祉士会総会での講演、福武教育文化振興財団とのハローミュージアムプロジェクト（小学生が当たり前美術館にいける仕組みづくり）の立ち上げ、県内助成実施団体との連携の強化として、みんなの活動助成団体連絡会での合同説明会を 5 回開催しました。みんなつくと直接の関わりでなくとも、様々なところから接点をもてるように、地域のインフラとなるよう取り組みをすすめました。

2023 年度は、次の 10 年を見据え、2018 年度から総務担当理事が兼務していた事務局長を新任し、事務局体制の整備をすすめるとともに、組織内のルールの再整備を行います。インフラとして機能するよう運営基盤を強化することで、寄付といえばみんなつくと地域で当たり前になるよう取り組んでいきます。

特に、寄付の喜びを実感できるように情報発信の強化、寄付の成果の見える化など寄付が日常となるよう取り組みを進めてまいります。



【2023年度3本の柱】

○ 要綱規定類の見直しとみんつく運営体制の強化

事務局長を新任し、次の10年を見据えた体制整備を行います。理事、事務局の力を発揮しやすい環境づくりとして、ルールの明文化や事業執行規則の見直しを行います。また、関係者の力を発揮しやすい仕組みづくりとして、理事がかかわり事業を実施するとともに、OB・OGネットワークを活用していきます。

- ・新体制（事務局長新任）を踏まえて運用ルールの見直しと明文化
- ・要綱規定類の改正および事業執行規則の改定
- ・OB・OGネットワークの運営開始

○ 寄付の喜びを実感

寄付者が寄付の喜びを実感できるよう、情報提供体制の整備、寄付の意義を感じる機会の提供など寄付の話をしやすい風土づくりをすすめてまいります。寄付することが喜びになることで、寄付が日常で当たり前になるよう取組を進めてまいります。

- ・寄付者への情報発信体制の強化（年次計画の策定と発信者の育成）
- ・寄付の成果の見えるかの取組推進
- ・寄付者コミュニティの構築（交流会の実施 等）

○ 新たな価値創造の取組（関係機関との連携）

寄付や連携により、新たな価値創造（みんなのあったらいいなを実現する」）力を高めてまいります。特に子どもたちの学びの支援や文化・体験活動の機会の提供など、岡山県内で子どもたちが育つ環境の整備を他機関と連携し、進めてまいります。

- ・奨学金ネットワークの構築（他組織との連携）
- ・ハローミュージアムプロジェクトの推進
- ・事業指定助成および冠基金の仕組みの見直し

【事業内容】

A.資源循環事業

(1) 助成事業

ア 事業指定助成プログラム

事業を公募し、審査委員会で審査後、その事業に賛同する市民・企業から寄付募集を行い、寄付金を財源として助成を行います。

(今年度のポイント)

・ 新制度で実施する。(団体の寄付募集のはじめの一步の支援)

※団体を常時募集し、プロジェクトの組成支援が主の目的でなく団体の基盤強化を目的に制度設計する。

■事業実施

20~40万の事業 × 2プログラム程度

イ 冠基金事業

基金を設置したい市民・企業から寄付金を募集し、寄付者の意向に従いテーマ設定をし、そのテーマでの事業を公募し、助成します。

(今年度のポイント)

・ 企業基金の設置に注力し、提案を強化する。

・ 既存の団体や仕組みを活用した基金設置の検討。

・ 助成した後の団体の経営基盤強化を支援

・ 奨学金助成の強化（ネットワークの構築）

■助成の実施

第10回通常助成については、第2四半期理事会において、助成方針を決定し、冬頃事業募集を実施する。また、FUNLIFE基金とみんつく子ども基金（社会変革基金）は、四半期ごとに募集を実施し、コロナの影響や社会状況の変化に対応できるように取り組んでいく。

ウ 社会変革基金

取り組まなければならない課題を可視化し、その課題解決に必要な資金を広く市民に基金を設置し、チャレンジを促すために助成を実施します。

(今年度のポイント)

- ・ももたろう基金事業報告書作成（災害から 5 年を契機として）
- ・緊急時対応のマニュアル作成と防災訓練の開始
（OB・OG ネットワーク活用）
- ・みんつく子ども基金の四半期ごとの助成実施

- 地域助け合い基金（継続） 管理費 20%
- みんつく子ども基金（継続） 管理費 20%
- みんつく災害支援基金（継続） 管理費 20%
- にいみ復興基金（継続） 管理費 20%

第 2 四半期理事会において、今年度の助成方針を決定し、冠基金と同様に募集を行う。（みんつく子ども基金は四半期ごとに助成実施）

（2）円卓会議

様々な分野の人が集まり、一つのテーマについて考える会議の実施、課題について話すことで知恵や情報をだしあい、解決のための役割分担や啓発を行います。今年度は、学生理事が中心となり、「若者を中心とした円卓会議」を実施します。また、Share 会議から発展して円卓会議を開催するなどまちの話題についてみんなで考える仕組みづくりを行います。そのほか、行政や市民団体等から依頼があったテーマについて開催またはコーディネートを実施します。

（今年度のポイント）

- ・まちの普段の話題からテーマをとりあげ、開催する流れの構築
→ 地域の問題を身近に感じる仕掛けづくり
- ・若者円卓会議の実施

B. 寄付文化創造事業

チャリティーイベントや寄付文化について考える交流会、またイベントなどでの寄付付商品の開発などを行い、寄付を体験する機会を提供するとともに助成事業等の原資になる寄付集めを行います。

- 募金箱と乾杯チャリティキットの設置場所のコミュニティ化
コロナの影響で活動ができない時期が続いていたが、総社エリアにおい

て、募金箱や乾杯チャリティキット設置場所を増設し、定期的に情報提供するなど関係性を強化し、コミュニティ化します。

■ 「ツクル日」企画の開催（毎月 29 日頃）

毎月 29 日頃に、寄付や社会的投資に関わる企画を実施します。昨年度実施した、422 人マラソンリレーや寄付月間祭りの定着を促すために、運営体制の強化をはかる。また、3 月 29 日は、「みんなつくる日」として事業報告会を兼ねた交流会を開催します。

■ 交流会・報告会の開催（年 2 回以上）

寄付者や助成団体などの交流会や報告会を開催し、みんなつく財団に関係する人の交流の輪を広げます。

■ 寄付月間の活用

12 月の寄付月間に NPO や企業等と連携し、寄付キャンペーンを実施します。2021 年度から開催した寄付月間まつりをより発展させるとともに、寄付の意義について実感できるように取り組みをすすめます。

■ 寄付の教室の開催（年 1 回以上）

寄付の教室を開催し、寄付やお金の使い方について考える機会を提供するとともに、学校や先生との連携強化し、寄付の教室の後の活動（寄付月間祭りなど）につながる仕組みを構築します。

C. 情報発信・人材育成事業

公益活動支援に関する内容について、講師・研修依頼およびコーディネートを受け付け、講演・研修・ノウハウ移転を実施します。また当法人主催で資金調達や情報発信など市民公益活動に必要な研修会を実施します。

■ 「+1 セミナー」の開催（年 4 回程度の開催）

年に 4 回程度、寄付や市民公益活動に関するセミナーを開催します。通常は無料開催で、外部講師招へい時やファンドレイジングに関する専門講座は有料で開催します。2023 年度は、内部人材育成の機会としても活用し、連続講座を開催します。

■ 講師派遣（年 1 回以上）

依頼のあった地域、団体に講師派遣を実施します。

■ ノウハウ移転事業（2団体以上）

自治体や公益団体に対して、資金調達や資源（補助金等）活用についてノウハウ移転および支援を実施します。2023年度は、瀬戸内市の協働事業やサンフラワー基金などの公益法人の運営支援を実施します。

■ ソーシャルライター講座の開催（年1回以上）

地域の情報を発信するソーシャルライター講座を開催します。今年度は、助成した団体の活動発信を意識し、講座受講後に発信、交流の機会提供を行っていきます。

D.調査研究事業

地域資源に関することや資金調達に関すること、地域課題に関することの諸調査を行い、その成果を発信するとともに、効果的な資源循環の仕組み構築に役立てます。また、必要に応じて、Share会議（市民団体による公開課題提案）を実施し、地域の課題のタネを収集し、調査研究や資源循環事業へと発展させていきます。

■ 奨学金ネットワークの構築と調査

「学びの支援」について国の制度設計もすすんでいるが、コロナ等の影響で、学びに金銭的不安を感じている人は多い、真如苑の社会貢献事業助成を活用し、岡山県内の奨学金の調査を実施し、実施団体のネットワークを構築します。

■ 医師会との非常時の連携に関する調査

災害やコロナのような非常時に医師会と連携した基金の設置や事業の実施（合同研修の実施等）などの可能性について調査します。

■ 地域調査員の活用（年1回以上）

情報収集・発信体制の強化のために、地域調査員や地域の核となるNPOを対象に情報交換会（交流会）を開催いたします。

■ コミュニティ財団や社会的投資市場に関する研究

全国コミュニティ財団協会の情報交換会や会議を活用し、他県の状況や

休眠口座活用法案等の制度のことなど情報収集を行います。

■ 「みんなの活動」助成団体連絡会の開催

平成 28 年度から実施していた地域力向上支援事業の内容を継続し、自治体や公益団体、金融機関と情報交換会を実施するとともに、合同説明会の開催を他の助成団体と協力して行います。また、地域の事業を育てる助成事業のエコシステムの構築を検討していきます。

■ 「Share 会議」の開催（年 4 回程度）

NPO 団体の事業相談や事業拡大の場として、活動発表の機会を設けます。特に割り勘申請団体の活動の拡散や、地域で必要な取り組みを育てるため、地域調査員や理事から情報収集を行い、候補団体に情報提供を行い、活動が進むようなサポートを行います。

2023年度も

よろしくお願ひします！

